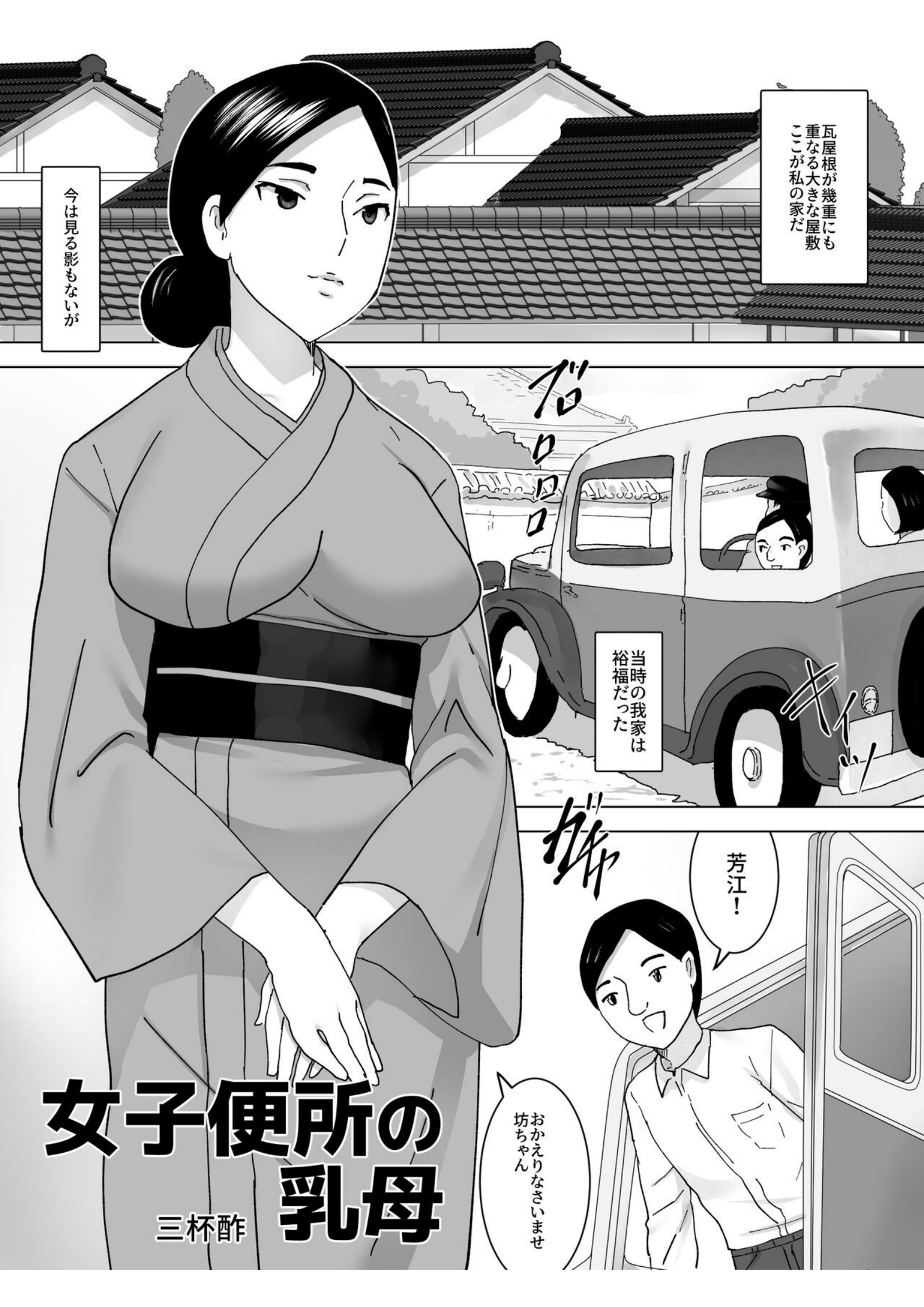






今は見る影もないが

瓦屋根が幾重にも
重なる大きな屋敷
ここが私の家だ

ゴ
ロ
ロ

当時の我家は
裕福だった

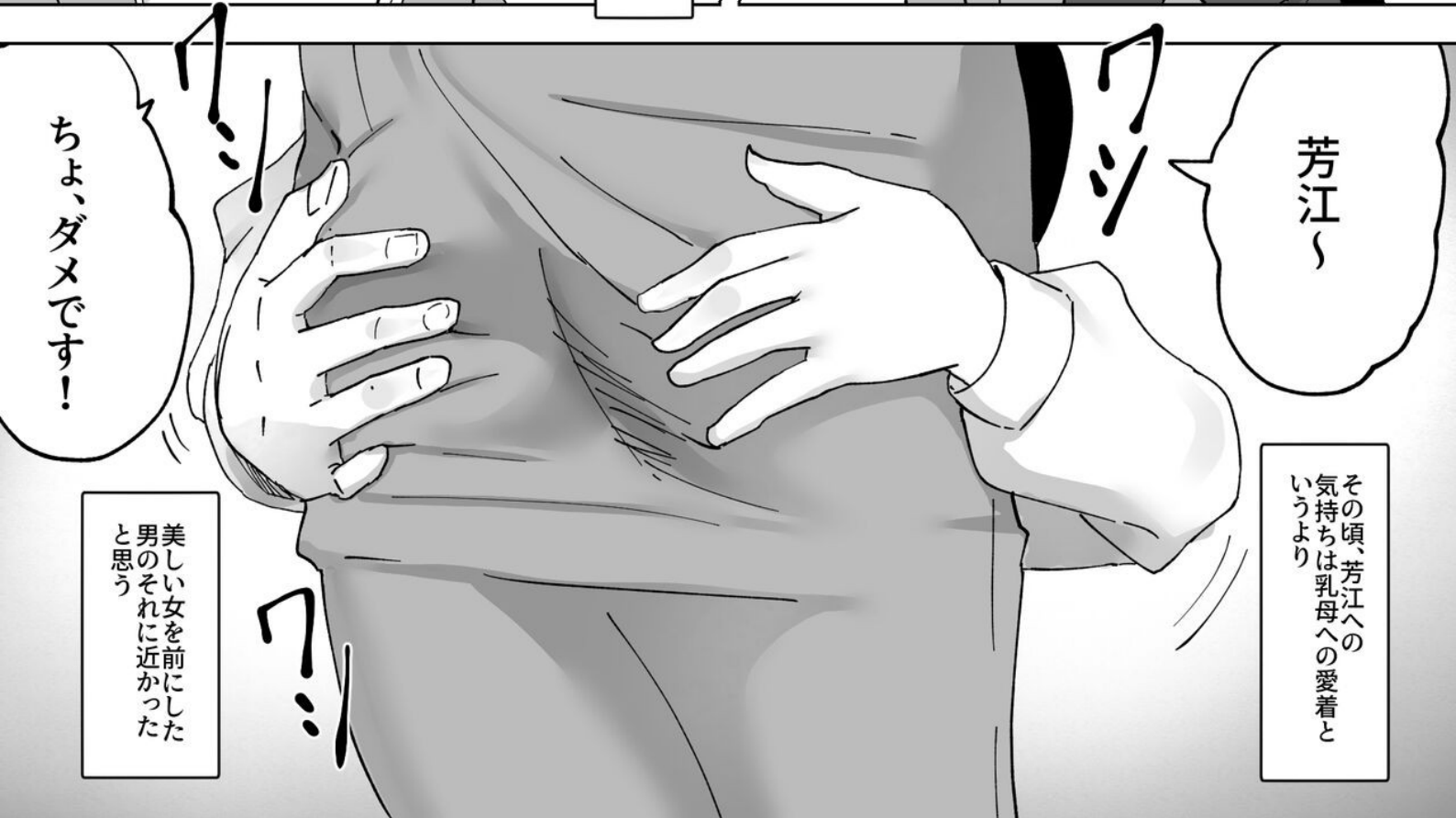
サッ

芳江！

おかえりなさいませ
坊ちゃん

女子便所の 乳母

三杯酢



全寮制の学校から
帰宅を許される長期休日

芳恵に会えることが
何より嬉しかった

おかえりなさい
ぼっちゃん

おかえりなさいませ

ただいま

おかえり
なさいませ

家は女中さんが
沢山いて華やかだった

幼い時分には
随分かわいがってもらった

つまりお坊ちゃんとして
ちやほやされていたのだ

なによ、あなた
紅なんかひいて！

あんたこそ化粧が
厚いんじゃないの？

いやらしいわね、
ぼっちゃんに色目使って

まあ！

小さい王様だ

しかしどんな女も
芳江の美しさには
敵わなかった

芳江！
部屋に入って

入ってもいいですけど

やらしい事するなら
すぐ出てきますからね

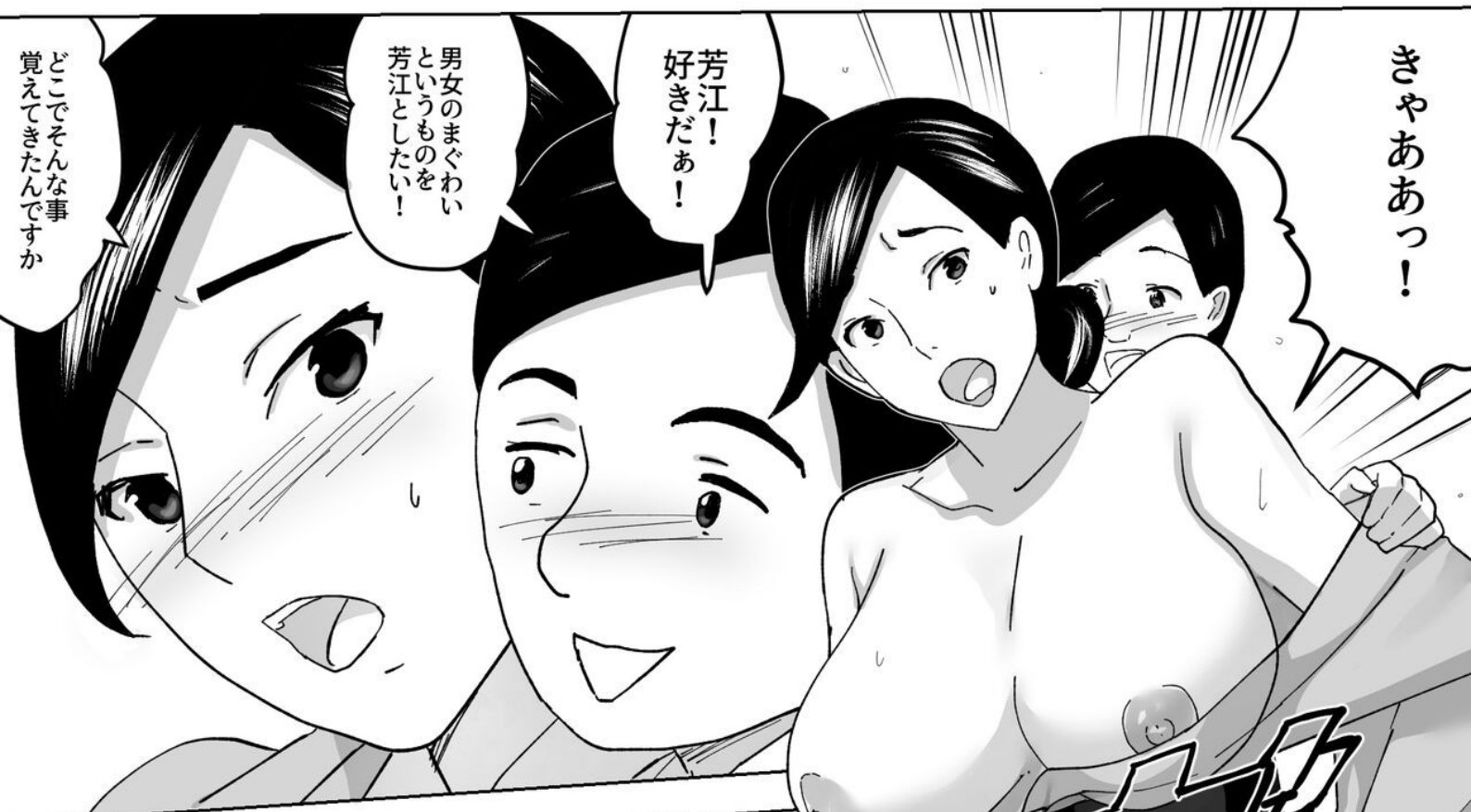


きゃああつ！

芳江！
好きだあ！

男女のまぐわい
というものを
芳江としたい！

どこでそんな事
覚えてきたんですか



学校の
友達に聞いた

芳江は美しい
都会は皆ブスばかりだ

まあ！







狙い通り廁の下に
入り込むことができた

つまり芳恵の
真下

芳恵の白い足が
穴から足が見えた時

見上げると
芳恵がむき出しの股間を
広げていた

心臓が止まるかと思った

太ももや何もかも
すべて丸見えだ！



白い肌に
丸い尻に

くすんだ色の肛門と
生々しいオマンコのひだ

芳江が…
うんこ…

これが芳江のもの

こんな形を
してるのか

ひく

ひく

肛門がある

ここは男と
一緒だ

いやいやそんな馬鹿な
美人はウンコなんて





最初あれほど嫌だった
汚物も気にならなくなった

バ
チャ

バ
チャ

バ
チャ

平然と
小便をかぶり

味を楽しむ
ことさえしていた

それから
芳恵の足音を聞いては
先回りし

下から排泄を覗く
日々が続いた

何度も
飽きることなく
覗いた

う、うんこって！
芳江が…嘘だ

おええっ

大便にもいつか
慣れてしまったか

くさいいっつ



そうやって何度も
逃がしませんよ

い、今忙しいんだけど

ダラ

ダラ

ダラ



ひっ

坊ちゃん
お話があります



ドキ

し

ドキ

ドキ

な...
なんのっ...
ことだか



キッ

私に言うことは
ありませんか？



恥を知りなさい！

この愚かものっ



でははっきり
言わせてもらいます

そう
とほけるんですね



私の廁を覗いていたでしょう！
やっていいこと悪いことの
区別もつかないのですか

あわわわわ…
ごめ……



覗きの件は親に
こっぴどく叱られた

芳恵はしばらく
顔を見なくなった

おたま

あら、ぼっちゃん
甘えて

だめですよ
仕事させてください

もうっ
離してください

きゃああっ

おたまの
おそそを
見せておくれ

ぼっちゃん！
何をなさるんですか





おおっ！
強い匂いだ！

直接嗅いで
味わえたら…

あああ
だめっ

おそろ
見せておくれよ



女の
小水

ご覧に
なりたいんですか？

千代！



聞こえ
ましたよ
坊ちゃん

ん？



なあ、小水
出しておくれよ

い、嫌です！

あああ
また…

何だお前
そんな所から

また仕事を
怠けてたんだろ

うふふ
弱いところ
見られちゃいましたね

これはお小水
見せないとい
けませんか

それじゃ

ははは

なんで
知ってるんですか？

皆言ってる

おお
そうだ、見せてくれ！

出ますよ

おおおおおっ

黄色い小水が
キラキラしてる





こんないけないこと
どこで覚えたのやら

病気になっても
知りませんよ



あああつ

はあ

はあ

はあ



はっ? えええ!
飲んでる?

ダメですよ
小水なんか

はあ



もっと出ますよ!
ほらっ

ほらっ!
美味しいかい

あああつ
坊ちゃんに
小水飲ませてる!

私の小水は
どんな味だい

こぼれてます
しっかりお飲み!

千代!
あなたって人は
なんてことをっ!

あっ

バク

バク

芳江!
戻ってきたのか

ねだられたからで

あ、あたしから
誘ったわけじゃ
ないからね!

し、
失礼しますよ

まあっ

バク

そんなもの出して

だって芳江が
見せてくれないから

嫌です!

じゃあまた
千代に頼もうかな

いけません!

見せてくれよ

坊ちゃん!
誰彼構わず手を出すのは
おやめなさい!